

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520359

研究課題名（和文） 録音資料による日本語アクセント研究

研究課題名（英文）Studies in Japanese Accents Based on Recorded Materials

研究代表者

中井 幸比古 (NAKAI YUKIHIKO)

公立大学法人 神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：10221441

研究分野：日本語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：アクセント、録音資料、DVD-ROM、CD-ROM、式音調、伊吹島方言、京都方言

1. 研究計画の概要

これまでに蓄積されてきた録音資料に基づき、日本語諸方言アクセントの解明を行う。また、録音資料のデジタル化・公開を行い、研究者が資料を共有することによって、研究の一層の進展をめざす。

日本語諸方言のアクセント研究は、昭和初年以来、数多くの優れた研究成果をあげてきた。アクセント調査時の録音も多量に蓄積されてきたものの、個人所蔵かつ未公開のものが多い。公開されている音源もないわけではないが、まだまだ対象方言・分量・内容が限定されている。

一方、方言アクセントの衰退・変質が進行しつつあるため、新たな臨地調査はこれからも重要ではあるものの、古い時代の録音資料が重みを増してきている。しかし、古録音資料に基づくアクセント研究はまだそれほど多くはなく、今後が期待される分野である。

デジタル化・公開された音源をもとに、新たに聞き取り・音響分析を行うことによって、記述をより客観的・精密なものにするとともに、現在調査不能な上の世代から現在に至るアクセントの変遷を明らかにすることが可能である。

本研究で対象の中心とするのは、近畿から四国北部にかけて分布する諸方言である。

2. 研究の進捗状況

平成 20 年度～22 年度にかけて、以下のような資料をデジタル化し、wav ファイル形式で、DVD-ROM または CD-ROM に『方言アクセント録音資料』(1)～(6)として公開した(3 のみ CD-ROM、他は DVD-ROM)。そして関係者に配布した。具体的には以下の内容である。

(a)『和田實・妹尾修子録音による伊吹島アクセント資料—方言アクセント録音資料(1)—』ISSN1883-6704(平成 20 年度)。

(b)『三好兼光録音香川県伊吹島方言会話資料—方言アクセント録音資料(3)—』(平成 21 年度)

(c)『録音・京都アクセント辞典(1)～(4)—『方言アクセント録音資料(2)(4)(5)(6)—』(平成 20～22 年度)

このうち(a)(b)は、史的観点から最重要方言の一つである伊吹島方言について、現在録音不能の、明治 20～30 年代生の話者の資料を含む。録音資料のみならず、アクセントの聞き取り結果・若干の考察を pdf ファイルで収録している。

この録音の公開と併せて、式音調一下降式と非下降式一の世代差について音響分析を行った結果(中井 2009)、下の世代の下降式音調においては、語頭から 2～3 拍目あたり、下降の右斜面に凹みが出来て、「高」から「中」に下がるが、上の世代ではそのような凹みがみられないことを明らかにした。

伊吹島方言については、式音調以外の種々の面についても分析を進めている。また、資料は公にできていないものの、瀬戸内海島嶼方言のアクセントについても考察を進めつつある。

(c)は、中井『京阪系アクセント辞典』(勉誠出版・書籍版)の主要部分のすべてと、固有名詞その他を含む録音である。明治 43 年生京都市出身の 1 名の話者の録音であるが、1 名の話者のアクセント録音としては、従来の資料の中でもっとも大きな部類に属する。録音のみならず、アクセントの聞き取り結果などを pdf ファイルで収録している。この資料を活用して、伊吹島方言の式音調と対照を行い、

上の世代の伊吹島の「下降式」音調は京都とあまり違いがない可能性があることを指摘した(中井 2010)。本資料は、式音調以外の面の考察についても資料として活用しつつある。

3. 現在までの達成度

研究全体としては、おおむね順調に進展していると考えている。しかし、資料公開については、話者氏名が不明の録音資料があったり、物故話者については関係者を探し出すことが困難な場合が多く、非公開にとどめざるをえない場合が目立つ。研究開始前からある程度予想されたことではあるが、やや立ち遅れていると言わざるをえない。

4. 今後の研究の推進方策

公開が可能になった資料についてはできるだけ公開を心がけるとともに、音響分析・考察の面の作業を一層進展させたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

・中井幸比古「伊吹島アクセントの式音調について」『神戸外大論叢』(査読無)60-6号2009年1-19頁

・中井幸比古「京都アクセントの式音調について—伊吹島アクセントとの比較を中心に—」『神戸外大論叢』(査読無)61-6号2010年31-52頁

・中井幸比古「書評 秋永一枝著『日本語音韻史・アクセント史論』」『日本語の研究』(査読有)7-1号2011年32-38頁

[学会発表] (計 1 件)

・中井幸比古「和田實・妹尾修子による伊吹島方言アクセント録音資料について」音声文法研究会 2009年6月27日(音声言語研究所)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

下記 DVD-ROM,CD-ROM を作成した (ISSN1883-6704)。

・『和田實・妹尾修子録音による伊吹島アクセント資料—方言アクセント録音資料(1)—』(平成 20 年度)。

・『三好兼光録音香川県伊吹島方言会話資料—方言アクセント録音資料(3)—』(平成 21 年

度)

・『録音・京都アクセント辞典(1)~(4)—『方言アクセント録音資料(2)(4)(5)(6)—』(平成 20~22 年度)